

センターだより

町中をピンクと白の路面電車が走り、シルバー事業をPR

公益社団法人長崎県シルバー人材センター連合会（長崎県） 専務理事兼事務局長 松尾和子



令和2年8月13日～11月12日、長崎市内を走った長崎県SC連合会のラッピング電車。ピンクと白を基調に、チエブクローなどをあしらったかわいいデザインで、シルバー事業をPRした



日本本土の最西端、九州の西北部に位置する長崎県は、三方を海に囲まれ、多くの半島と島々から成る豊かな自然と美しい景観に恵まれたところです。二つの世界文化遺産（明治日本の産業革命遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」）を有し、数々の名所旧跡が見られるほか、おいしい料理も豊富で、人々を飽きさせることがありません。

長崎県SC連合会の概要

長崎県SC連合会（以下、連合会）は、平成九年に社団法人として設立し、平成二十四年に公益法人に移行しました。

現在、県内には十七のシルバー人材センターがあり、令和元年度の実績は、会員数が五千八百七十九人（対前年度比約一・四％、八十二人増）と、四年來の減少に歯止めがかかりました。一方、契約金額は約二十七億五千五百五十五万円（対前年度比約四・二％、約一億千八百八十三万円増／労働者派遣事業を含む）でした。

育成事業で四年ぶりに会員増

長崎県では、全協協の「第二次会員百万人達成計画」を踏まえ平成三十年度に中期事業計画を策定し、会員拡大に向けて取り組んでいます。その際、重要な役割を果たすのが「高齢者活躍人材確保育成事業（育成事業）」です。令和元年度、この事業による新入会員の獲得は百六十九人で、四年ぶりの会員増加に大きく貢献しました。令和二年度はさらに多彩なメニューで計画を策定し、職員ともども「さあ、やるぞ」と意気

込んでいたところ、まさかの新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の拡大で、足踏みを強いられることになりました。

ラッピング電車でも展開 女性限定セミナーなども展開

そんな中でも、できることからやろうと取り組んだのが、周知・広報活動です。

新聞折り込みチラシ、地方タウン誌への掲載、ケーブルテレビへのコマーションを開始。これに加えて、新規事業の目玉として、令和二年八月十三日～十一月十二日に会員募集と仕事の依頼をPRした、ピンクと白を基調としたかわいいいデザインのラッピング電車を走らせました。

長崎の路面電車といえば、レトロな車体や、ゲームとコラボした斬新な企画など、走る広告として市民に親しまれています。しかし、連合会の電車も負けてはいません。明るく目立つ色調とかわい

い絵柄は女性の目線を意識した、ちよつと自慢のデザインです。

世の中の時流を取り入れようとする際、女性の感性や視点は大切です。特に令和二年度は「女性会員を増やす」を目標に掲げており、周知活動についても、女性の理解や共感を得られるような取り組みが重要だと思っています。

新型コロナがいつたん落ち着いてから取り組んでいるのが、技能

講習、セミナーなどです。

技能講習については、従来から行っていた剪定やパソコンに加え、調理や清掃のスタッフ養成講座など、福祉や介護、家事分野にも対応可能な人材養成に努めています。また、セミナーについてはセンター職員からのアイデアを採用し、「終活セミナー」「お片付けセミナー」など、趣向を凝らした内容を実施。今後は「女性限定シニアレ



大好評だった「女性限定シニアレディ向けメイクアップセミナー」。今後は県内各地での開催を予定している

ダイ向けメイクアップセミナー」や「スマホ教室」を各地で開催予定。すでにメイクアップセミナーを実施したセンターでは、参加者を「女性限定」にしたことが、大好評だったとのことでした。

できることは全部やる

今後は、就業体験、企業説明会といったものも含め、連合会主催の育成事業による企画がめじろ押しですが、「できることは全部やる」という気合で、新入会員の獲得に向け、進めていきたいと考えています。

新型コロナの影響で、長崎県の業績は令和元年度に比べ一～二割減少しています。そのような中でも、入会して良かった、仕事をしてもらって良かったと、会員からも地域の人々からも満足し応援してもらっている組織づくりに向け、連合会としてこれからも県下のセンターと協力しながら汗を流していきたいと考えています。